

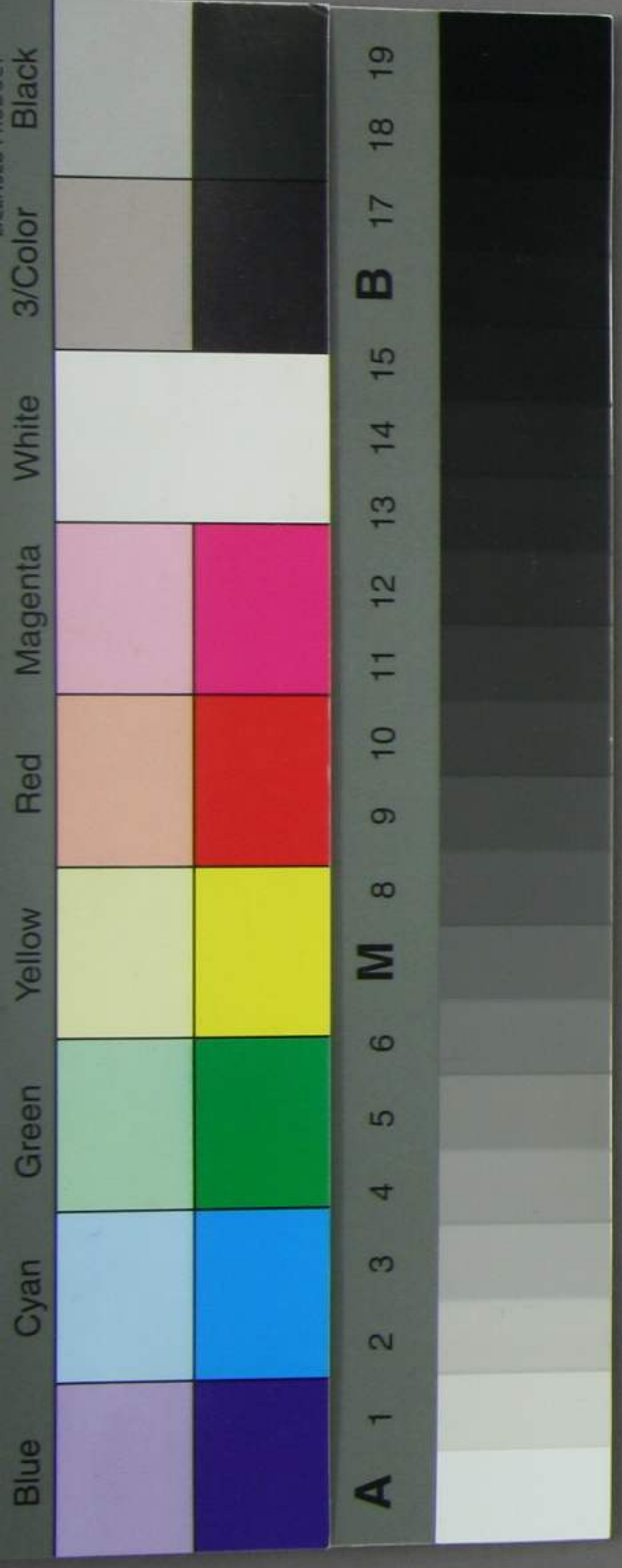
114
A 4419



及洋方の為之の返書

臺灣の舉起する時余ハ日本官負の身分をもちて都
ニ接する事の望を受ずる蓋し想ふ余を以てこの
事を為し得ざるを憂余の千八百七十二年十二
月十九日日本政府の雇入となる事後最初外務省に
於て明治五年十一月廿八日即ち千八百七十二年十二
月廿八日ニ政府に於けは正當の職務を余に與へ次
に藩地事務局に於て千八百七十四年四月

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



ニ更ニ其職務を余ノ與ヘ多ク欲スル方余ハ之ヲ以テハ
最早此ノ事ヲ須要ト爲スル旨状ヲ過シ去リ其
地事務局ヲ不日閉鎖スルコトヲ余謹ンテ閣下ニ余
方々ノ委任状ヲ差出シ其職ヲ辭シ且千八百七
二年十二月中先立テの台衆國公使デロニケ氏ト尚
時ノ外務卿副島氏ト互ニ取替ムル旨往復書翰中
ニハ余カ日本政府トノ關係ヲ規正スル協賛並ニ余
ノ政府ノ爲ニ奉職スル時間何時多クとも政府ト
余ノ授ケル公務上ノ貴重ナル其他ノ利益益ヲ明示
スル事ハ余亦謹ンテ閣下ノ古往復書翰ニ注意スル

事をしてしよ

除

又余ノ政府トノ關係ヲ保存スル爲メ時期ノ事ハ甘々
余復メ更ニ謹ンテ閣下ノ古ニ能ク往復書翰
注意スルコトヲ閣下古往復書翰を一覽シ
給ハ時々政府ト余ト共ニ事務毎案ノ終ルコトヲ
相互ニ契約ノ義務ヲ免ル得可ク旨ヲ知リ給ハ
今更ニ二三週ヲ経キ余ノ當テ成就スル旨ノ求
受テ事業ヲ修整スルコトヲ而テ其時ハ
而七十四年七月八日余ハ閣下ニ呈シ書ノ返答
大隈氏ノ後日進メニヶ月間ノ休暇ヲ余ト與ヘ

を約さしけり。如く閣下若し親み其二月月間ノ仕
余も賜ふ余も於て恐謝さば多分承り而て此二
ヶ月の賜暇の後閣下の命令に従ひ余も事業を終成
さすべしとて余閣下ふとてとて閣下余の職を
免し余を全く其勤務を離せし給ふて予を
恐惶敬白

千八百七十五年七月日

東京に於て

李仙得

太政大臣

三條実美閣下